

# 好学尚武

市立浦和高等学校野球部通信  
発行者 鈴木 諭

発行日 H30. 1. 9  
発行ナンバー 560号  
(田中主将の代・・・61号)

## 新年のスタート

明けましておめでとうございます。  
今年もよろしくお願ひ致します。

年末年始はリフレッシュできたでしょうか？  
この期間、私は生徒に簡単な宿題を出しました。新年への想い、決意のようなものを私にメールするというものです。1人1人個性のある文章で楽しませていただきましたが、私も全員に返信をしました。このやりとりの内容を忘れずに取り組み、「有言実行」となるよう頑張っ  
て欲しいと思います。

## キタサンブラック

年末の31日朝、我が家の女組(妻1・娘2)は寝ていたの  
で、珍しく私が自由にテレビを観ることのできる時間がありました。そこで印象に残った番組が、有馬記念に出走するキタサンブラックのスタッフに密着した番組と右側に書かせていただく千葉ロッテ・井口選手(監督)についての番組でした。競走馬が表舞台に立つまでにたくさんの人間が関わり、持っている能力のすべてを発揮できるようにしていること・・・1頭のサラブレッドをサポートする態勢の充実した感じが伝わってきました。私も市高の選手を(このような形で)支援しなくては・・・と思いました。また、キタサンブラックという馬が素質に恵まれていたわけではなく、厳しい調教を重ねて強くなったこと・・・レース時とはにかく先行して逃げ、終盤は他馬の猛追をしのぐ・・・何か市高野球部と共通する部分があるな・・・と思い、見入ってしまいました。

市高野球部員にもキタサンブラックのように最後(引退)まで突っ走ってほしいと思います。

## 井口選手→監督へ

私が中学3年生の時に市高が甲子園でベスト4という成績を残したこともあり、入学してからの3年間で対戦(練習試合)させていただいた相手校はとんでもなく強い高校ばかりでした。

そんな強豪校の中でさらにインパクトがあった選手、それが当時、国学院久我山高校の選手だった井口選手でした(学年は私の1つ下です)こういう選手がプロに進むんだらうな・・・そう感じさせる選手でした。川口市営球場で行われた市高との練習試合で2本のホームランを打ちましたが、そのホームランの中身がスゴイ・・・ショートを守る私が空を見ながら口を開けてポカーンとする時間がある・・・そんな滞空時間の長い大きなホームランでした。

この日の番組は、現役選手としての最終年、また監督としてスタートをするこれからの姿を密着する・・・という内容でした。恩師にあたる、王貞治氏の助言が印象的でした。

「(野球)人生は迷路と似ている。迷っていない時はほっといいが、指導者とはその迷路を少し離れた高い位置で見ているような存在なのではないか・・・迷った時、どのような言葉(アドバイス)をかけられるかが大事」

パ・リーグは正直、どのチームも充実していて、今、千葉ロッテの監督に就任するのは厳しいのかも  
もしれません・・・でも、現役時代に優勝も最下位も大リーグ(では世界一も)も経験した実績は間違いなくプロ野球界に新しい風を吹かせるのではない  
でしょうか・・・応援しています。

いつも間にか「年下」がプロ野球の監督になるようになってきています・・・私も頑張らなくては・・・と思います。